

2021年度のルールや採点について

東京都高体連体操女子専門部

<1>2021年度高体連主催の大会における適用ルール

2017年版採点規則「変更規則I」を適用し、跳馬、段違い平行棒、平均台、ゆかの4種目で行う。

<2>2017年版採点規則集変更規則I内容の確認

1. 選手の規則

○選手の義務（採点規則P3、P4）

- ・いかなる規律のない行動または乱暴な行動も、また他の参加者の権利を妨害することもしてはならない。
（例：演技前の準備で跳躍板からスプリングを外すことや、ゆかの演技面にマグネシウムで印を付けること、器械器具を傷つけること；選手が演技の開始時に低棒の下を走るまたは歩くこと）

補足

※演技前、審判に挨拶したのち、低棒をくぐって演技開始位置につく、または低棒をくぐって（助走のように）高棒から演技を始める等した場合、減点となる。（0.30の減点）

- ・演技中追加マット（着地用マット）を動かすことができない。（段違い平行棒、平均台）
- ・跳馬、段違い平行棒、平均台での終末技（着地）のために、基本の着地用マット（20cm）上に、10cmの柔らかいマットを追加して使用しなければならない。
（学年別大会・秋季大会はエバーマットでもよい）

補足

※開始技と終末技を同じ台の端から実施することは可能だが、着地用補助マットを移動することは出来ない。
※アウエルバッハ宙返り下りを実施する際は認められる。

- ・10cmの着地マット上に跳躍板を置くことが許される。（段違い平行棒、平均台）
- ・段違い平行棒、平均台では、跳躍板を取り除くために演技台に上がることができる。ただし、その後は演技台から速やかに離れなければならない。

2. コーチの規則

- ・補助行為（演技を助ける）
各-1.0（最終スコアから）
（DV、CV、CR、SB（BB）なし）
※段違い平行棒：選手の演技中、コーチが選手に触れても減点はない。
- ・補助行為（跳馬の跳躍中のすべて）
無効（0.0）
- ・許可されていない補助者
-0.5（当該種目最終スコアから）
- ・許可なく演技台に入ってはならない（跳躍板を取りはず場合や怪我、器具の欠陥の場合を除く）
- ・演技中の選手に直接話しかけたり、合図やかけ声をかけない
※多くのコーチに見受けられます。ご注意ください。

3. 一般欠点と減点（採点規則P20～P22より一部抜粋）

- ・演技の前後にD審判員に挨拶をしない
-0.3（当該種目最終スコアから）
- ・跳馬のロンダート入りの跳躍技でのセーフティカラーを正しく使用しない
-無効（0.00）
- ・追加の着地マットを使用しない
-0.5
（当該種目最終スコアから）
- ・演技中に追加マットを移動する、または許可のない平均台の端へ移動する。
-0.5（当該種目最終スコアから）

- ・不適切あるいは美的でないパット使用 - 0.3 (当該種目最終スコアから)
- ・マークがついていない、または付ける位置の違反 - 0.3 (発覚した最初の種目から1回)
- ・ゼッケンがついていない - 0.3 (発覚した最初の種目から1回)
- ・不適切な服装 (レオタド・装飾類・包帯の色) - 0.3 (発覚した最初の種目から1回)
 - ※演技中下着が見える減点は、ここに含まれる
 - ※服装違反について以下の項目 を追加する
 - 化粧や装飾品類でのピアス・ネックレス・ブレスレット等をしている
 - ※服装、レオタドに関しては別紙「全国高等学校適用規則」も参照のこと。

- ・チーム選手の誤った演技順での競技 - 1.0 (当該種目のチーム得点から)
- ・レオタドが同一でない (同じチームの選手) - 1.0 (発覚した最初の種目から1回)
- ・主審の合図後、30秒以内に演技を開始しない - 0.3 (当該種目最終スコアから)

4. その他 (一部抜粋)

1) 平均台

○芸術性と構成の減点

- ・難度表にない開始技 - 0.1

(難度のないすべての開始技はまたいで座ったり、しゃがみ立ちで上がるもの除いて一般的に A 難度として認められる。)

○種目特有な実施減点

- ・調整 (不必要な踏み出しや動き) 各 - 0.1

補足

: 下りの前に台の端を確認するような動作も含まれる。

2) ゆか

○演技の内容

- ・終末技を含む最大 8 つの高い順からの技が難度点として数えられる。

＝終末技なし 最終スコアから - 0.50

- ・最後のアクロラインが終末技となる。

もしアクロラインが 1 本しかない場合は終末技なしと判断される。

a) アクロライン

— アクロラインは 1 つの宙返りを含む少なくとも 2 つの空中局面を伴う技の直接の組み合わせからなる。

— 最後のアクロラインの後に実施されたアクロバット系の技は、難度点として数えられない。

3) 落下による中断時間について

○段違い平行棒

: 機械から落下したり、演技を続けるために再び段違い平行棒に戻るまでに 30 秒の中断が許される。

- ・もし、選手が演技再開までの許容時間を超えた場合、それでも選手が演技を続けるならば、中断時間の超過の減点 - 0.30 が適用される。

・落下後、挙手をして挨拶することは演技再開には必要ではない。

・公式に演技が再開されるのは、演技再開のためにマットから足が離れた時である。

・もし、選手が 60 秒以内に演技を再開しなければ、演技終了とみなされる。

○平均台

：器械からの落下による演技の中断は 10 秒まで許される。

- ・もし、選手が演技再開までの許容時間を超えた場合、それでも選手が演技を続けるならば、中断時間の超過の減点-0.30 が適用される。
- ・落下後、拳手をして挨拶することは演技再開には必要ではない。
- ・もし、選手が 60 秒以内に演技を再開しなければ、演技終了とみなされる。

4) 練習時間について

跳馬 ⇒ 2 回 平均台、ゆか ⇒ 1 人 30 秒 段違い平行棒 ⇒ 1 人 50 秒

※チームには、跳馬を除き、練習時間の合計が与えられる 個人グループには、個人に与えられる。

補足

※跳馬の練習では、助走路上のいかなる助走も 1 回の練習とみなす。また跳躍台上からのジャンプ、宙返り等も 1 回の練習とみなされる。

5) 助走（開始技）について

以下の種目において、追加の助走（開始技）は以下のように許可され、1.00 の減点を伴う。（※跳馬以外）

跳馬：2 回の跳躍が要求されている場合、もし跳躍板や器械に触れていなければ、3 回目の助走が認められる。（4 回目の助走は認められない）

※変更 I で行われる試合では、追加の助走に減点は伴わない。

※跳馬は 3 助走 2 演技（1 演技でも可）

段違い平行棒

：もし 1 回目の試みで跳躍板や器械に触れたり、器械の下をくぐり抜けたりした場合

- ・ 1.00 の減点
- ・ 選手は演技を開始しなければならない
- ・ 開始技の難度はなし

—もし選手が跳躍板や器械に触れたり、器械の下をくぐり抜けたりしなかった場合、2 回目の開始技（減点を伴う）が許される。

- ・ 1.00 の減点

—3 回目の試みは認められない

平均台：もし選手が 1 回目の試みで跳躍板や器械に触れた場合

- ・ 1.00 の減点
- ・ 選手は演技を開始しなければならない
- ・ 開始技の難度はなし
- ・ 「難度表にない開始技」の減点を適用

—もし選手が跳躍板や器械に触れなかった場合、2 回目の開始技（減点を伴う）が許される。

- ・ 1.00 の減点

—3 回目の試みは認められない

5. スコアの決定（採点規則集 P13~P18 また、変更規則 P1、2 参照）

1) 最終スコアについて

Dスコア+Eスコア=最終得点

必要に応じて、計時、ライン、行動などの減点（ND）を行う。

2) 跳馬

2 回の跳躍を実施し、良い方の得点が有効点となる。

1 回の実施であってもその得点が有効点となり、種目特有の減点はない。

3) Dスコアの内容

1 難度点 (DV)

一 段違い平行棒、平均台、ゆかでは、終末技を含む最大8つの高い順からの難度点を数える。

【平均台・ゆかの演技の内容】

数えられた8つの技の中には少なくとも以下を含めなければならない：

- ・ 3つのダンス系の技
- ・ 3つのアクロバット系の技
- 残りの2つの技は任意の選択

2 終末技 (段違い平行棒、平均台、ゆか共通)

実施された終末技によって、以下の加点を与える。

加点はDスコアに加算される。大過失のある実施にも加点が与えられる。

- ・ Bの終末技 +0.30
- ・ C以上の終末技 +0.50

※学年別大会、種目別大会、秋季大会においては以下のように変更する。

詳しくは、申し合わせ事項参照のこと。

- ・ Aの終末技 +0.30
- ・ B以上の終末技 +0.50

3 構成要求 (CR) $0.5 \times 4 = 2.0$

変更規則 I の段違い平行棒、平均台、ゆかでの構成要求 (CR) は以下のとおりである

変更規則 I 高校適用

【段違い平行棒】

- ① 高棒から低棒へ移動する空中局面を伴う技
- ② 空中局面を伴う技 (構成要求 1 とは兼ねられない、終末技を除く)
- ③ 異なる握り (後ろ振り上げ、開始技と終末技は除く)
- ④ 360度以上のひねりを伴う空中局面を伴わない技 (開始技を除く)

【平均台】

- ① 180度開脚 (前後または左右) または左右開脚屈伸のリープ、ジャンプを1つは含む、少なくとも2つの異なるダンス系の技からなる組み合わせ
- ② ターン (グループ 3)
- ③ 1つの空中局面を伴う技を含む、少なくとも2つの技からなるアクロバット系シリーズ (同一技でもよい)
- ④ 方向の異なる (前方/側方と後方) アクロバット系の技

【ゆか】

- ① 180度の前後/左右開脚または左右開脚屈伸の跳躍技を1つは含む2つの異なるリープまたはホップ (難度表にある) の直接または間接 (ランニングステップ、小さなリープ、ホップ、シャッセ、シェネターンが入った) の組み合わせでの移動
- ② ひねり (1回ひねり以上) を伴う宙返り
- ③ 2回宙返りまたは2つの異なる宙返りを含む1つのアクロライン
- ④ 後方宙返りと前方宙返り (片足踏み切りの宙返りは除く)

注：構成要求の2、3、4はアクロラインの中で実施しなければならない。

4) 組み合わせ加点 (CV)

0.1 または 0.2

※平均台のシリーズボーナスについては、P37 参照

4) Eスコア 10.00 (実施)

Eスコアは以下の欠点による減点を含む

—実施

—芸術的表現

5) 短い演技の減点について 2017年版採点規則集 変更規則について P.1 参照

演技の実施と芸術性の減点がなされるEスコアの最高点は以下の通り

- ・ 10.00 もし6技以上の実施であれば
- ・ 6.00 もし5技の実施であれば
- ・ 5.00 もし4技の実施であれば
- ・ 4.00 もし3技の実施であれば
- ・ 3.00 もし2技の実施であれば
- ・ 2.00 もし1技の実施であれば
- ・ 0.00 もし技の実施がなければ

6) 跳躍や演技を試みなかった場合の国内対応

国内競技会においては、従来認められていたように、緑ライトの点灯またはD1 審判員からの演技開始の合図の後、選手がD審判員に挨拶をし、跳躍板や器具に触れてから再び挨拶 することで 0.00 点として扱うこととする。(すべての種目)